

浄土への道 信仰者の道として提示されて来たものであると結んでゐる。

この様で、信あるものは信解と訳される *śraddha*, *adhimu-kti*, *prasaada* の三語の *śraddha*、広い範囲にその概念を求め、

◇ 学 園 彙 報 (昭和五十五年度)

(1) 「仏教文化研究所」発足

昭和五十五年四月一日、本研究所在が発足した。その目的は「仏教学・日蓮教学・日蓮教団及び人文科学等に関する調査研究を行い、學術の進歩発展に寄与する」(研究所規定三条)としてゐる。当面その事業としては、①学内研究会の開催と充実。②機関誌「榎神」の刊行。③宗祖七百遠忌記念「身延山年表」の作成と刊行。④学外の各種學術研究大会に積極的参加。⑤公開文化講演会の開催。⑥日蓮宗(委託)普通講習(五月・九月)開設。等を実施することにしてゐる。研究所初代所長には、町田是正教授(中国法制史並に中世日本仏教思想史)が選任され、主任に中条晄秀講師(日蓮教学並祖書学)・奥野本洋講師(天台学並に日蓮教学)の二人が委嘱された。

法華經で使用されている例を挙げ法華經が述べようとしている信および信解を的確に捉えている好著書といえる。

A 5版 四〇九頁
価 九、五〇〇円

(2) 望月海淑教授・「法華經における信の研究序説」(東京・山喜房仏書林)の出版。

本書は望月教授二十有年に亘る法華經研究の一大成果である。梵文法華經・正法華經(竺法護訳)・妙法蓮華經(羅什訳)・添品妙法蓮華經(共筑多訳)の比較研究を通して、法華經の意味を問ひ続けた結晶である。殊に「信」に視点を据えて成果を學界に問われた大著である。その内容の詳細については、望月海英講師に依る書評(本誌掲載)を参照されたい。

(3) 学内研究発表会の開催。

本学に所属する先生方による当研究会は満五年を教える。殊に本年度は、同窓会々長・灘上恵教師に依って研究奨励基金も設立され、研究会の充実と発展が期待されている。本年度の発表は左記の通りである。

◇第三十七回（五月十九日）

シルクロードの変遷とイスラムの成立

教授 高橋堯昭

シルクロードの変遷を歴史的背景に据え、その中から成立していったイスラームの成立諸条件を、社会的、政治的、遊牧民の伝統、慣習など多角的分野から論究された。高橋教授はインド・パキスタン・中近東・更には西域辺境の地にも探査の歩を進めること十数回、その実績と豊富な資料を駆使した論であり裨益される所が多かった。

◇第三十八回（六月二十三日）

七面明神の「本地」について

講師 奥野本洋

本地とは何か、従来、身延山に於ける論及はタブー視されてきたが、それに対して(イ)成立年次、(ロ)鬼子母神・十羅刹女信仰との関連性、(ハ)天照太神並に巨石信仰との関連など、興味ある内容であった。斯る民俗信仰のニュアンス濃い問題は、科学的信憑性、理論の組み立て方などで議論の多いところであるが、将来にその研究成果をまちたい。

◇第三十九回（九月二十四日）

言語と原色・言語の変化

教授 大森孝

「色」にみる人間意識の醸成と言語の変化についての興味ある発表であった。実例を提示し、海外での研究状況を紹介して、言語の意味はコトバの変化と経緯を知るだけでは不十分となし、「色」（意味・内容・慣習・文化との関連）の意味を理解することが重要であるとされた。

◇第四十回（十一月五日）

ソ連・モンゴル宗教事情視察報告

教授 長谷川義浩

六月十七日より七月四日まで、モスクワ・レニングラード・モンゴル各地の宗教事情探訪の報告、所謂、赤い国々の状況報告であったが、既に相手側の用意していた資料・限られた地域の探訪、短期日であったこともあって、赤い国家の本音を問いたただすまでには至らなかった。然し、長谷川先生によつて、そのヴェールが少しはがされたのは収穫と云えよう。

◇第四十一回（十二月九日）

四山河（川）について

教授 上田本昌

夙に四山河に関する論著は多いが、上田教授はそれらを整理されたうえで、宗祖の御文書にみられる四山河の状況、位置などの描写が極めて文学的修飾・形容詞句をもって綴られていることに注目された。身延山描写の御文書が迫害多難

の緊迫下のものでなく、靈山淨土にも比した身延山における筆になることに留意して御文書を拝読してほしいと。異色の身延山論であった。

◇第四十二回（五十六年一月十日）

立正観鈔・同送状―身延日進写本をめぐって―

講師 中条 暁 秀

「立正観鈔」（文永十一年甲戌）「立正観鈔送状」（文永十二年二月二十八日・最蓮房宛・身延三世日進写本・現身延山藏）の二書に対する透徹した論の展開。従来の研究成果を踏まえつつ最蓮房関係書十二篇中、僅かに残る日進古写本に注目して、同鈔に引用されている経論典籍の分析、日進の学的傾向に肉迫した。身延山草創期の解明、書誌学的立場から幾つかの教示をうけるものがあつた。

◇第四十三回（二月二日）

甲斐河内領・穴山氏の支配構造について

教授 町田 是 正

甲斐源氏・武田氏の一門、穴山氏の支配構造について、南松院（身延町下山）・円藏院（南部町南部）・各旧家に伝わる古文書を通して、①「武田穴山」の意識が誇示されたこと。

②武田本家の支配と穴山氏の再支配という河内領の二重支配構造。③穴山氏の領地支配確立の経過（在地小武士掌握形態から一括農民支配へ）。④墳寺の創建と寺領確保などに論及した。かかる河内領内にあつて治外法権的立場を得ていた身延山久遠寺と、穴山氏との関係はいかなるものであつたのか。この問題は後日にゆずられた。

(4) 公開文化講演会の開催

日時：昭和五十六年二月四日、場所：身延山短期大学。

講師：山梨大学教授・伊藤 壮 先生、演題：山梨県の産業経済―峡南の未来―

本学では毎年、斯界の権威者を招聘して公開文化講演会を開いて、単に学内にとどまらず広く地域住民の啓発にも努めてきた。本年は今、地元峡南（身延町を含めて）地域がかかえている①人口の過疎化、②急速に進む高令化、の問題について山梨県の産業経済の構造のうえから示唆にとむ問題提起をしていただき、理解と認識を深めることができた。

(5) 「灘上研究奨励基金」の設置

同窓会々長灘上恵教師（横浜市善行寺）には、本学の学内研究会の開催を佳とされて、金百五十拾万円の資金を寄せられた。本学教授会に於て師の芳志を意義あらしめるため「灘上研究奨励基金」としてこれを設け、その基金を活用して研究会の充実をはかることにした。

(6) 吉田鳳祥師の特志

吉田鳳祥師（名古屋市長柳寺前住）には、短大図書館の充実資金として金貳拾五万円、同窓会本部活動資金として金拾万円を寄せられた。宗門教学の振興、身延山研究体制の充実の資として活用させていただきます。

(7) 同窓会本部役員会の開催

日時：昭和五十五年九月十日、場所：身延山短期大学会議室
出席者：灘上恵教、林是幹、里見泰穂、池上要輝、岩田日成、深沢義雅、大石要英、長谷川寛慶、池原鍊昌、望月嶺悦、上田本昌、町田是正の各氏。

決議事項：①学園図書館の建設に邁進すること。②宗祖七百遠忌の意義について、同窓会支部長から建設的意見を徴すること。③同窓会支部未結成地域に対して、早急に結成化を依頼すること。

右の決議のうち、図書館建設（研究室と短大本部併設）の議は、学園当局にとっても年来の宿願であっただけに、教職員一同もその完遂に向けて鋭意努力することを決めた。

(8) 学園特志者の表彰

本学教授会（一月十日）は、学園の研究体制の充実、教学振興に多大の寄与をされた次の三師を表彰し永くその功を残すことにした。

(一) 灘上恵教師（横浜市善行寺住職・本学園法人理事・学園同窓会々長）

(二) 吉田鳳祥師（名古屋市長・真柳寺前住・和身会々員）

(三) 中里悠光師（身延町・鏡門坊住職・本短期大学講師）：師父中里日応上人（当短期大学教授）の遷化に際し増円妙道追福の資として金五拾万円相当の図書一式を寄贈して学徒の研究に寄与された。

（文責・町田）

(9) 学会活動報告

○日本印度学仏教学会

第三十一回學術大会は、七月十八日（金）・十九日（土）の両日、龍谷大学深草学舎（京都市伏見区）において開催され、本学より左の三氏が研究発表された。

里見泰穂

中論の論理の一考察

若杉見龍

智顛と吉蔵——五百由旬の解釈をめぐって——

中条暁秀

○日本仏教学会

昭和五十五年度學術大会は、十月十八日（土）・十九日（日）の両日にわたり、「仏教における生死の問題」を共同研究テーマとして、大正大学（東京都豊島区）において開催され、本学

より里見学頭が研究発表された。

日蓮聖人の生死観

里見泰穂

○日蓮宗教学研究発表大会

第三十三回日蓮宗教学研究発表大会は、十一月十四日(金)

・十五日(土)の両日、日蓮宗宗務院において開催された。本学からの研究発表者は左の五氏であった。

本尊の一考察

桑名貫正

最蓮房あて御書の検討——当体義抄について——

中条暁秀

天台三大部と法華論

若杉見龍

宗祖身延入山に関する一考察

上田本昌

身延山諸堂建立考

林是晋

(文責・中条)

○田島義雄師(深谷市円受院住職)篤志

昭和五十六年一月、田島師には本学園書館に対して金五拾万円の篤志を寄せられた。宗祖七百遠忌正当年に際し、その法功は大きく身延山教学振興の為に及びたいす所です。甚深の謝意を表します。

◇昭和五十五年度短大卒業生論文論題

()内は指導教官、敬称略

番号 論題

学生氏名

- 1 日蓮聖人の報恩観(望月海英) 稲葉康晴
- 2 本宗に於ける妙見信仰(畑一勇) 門田観能
- 3 開目抄について(里見泰穂) 神蔵義孝
- 4 日蓮宗伝道の変遷の一考察(町田是正) 亀井隆司
- 5 日蓮聖人の神祇観(秋葉真教) 菊田泰孝
- 6 日像上人の帝都開教とその後の変遷(望月海英) 小林明
- 7 清正公信仰について(林是晋) 後藤十三男
- 8 日蓮聖人の靈山往詣思想(中条暁秀) 権藤泰成
- 9 日蓮聖人の成仏観(桑名貫正) 下田一成
- 10 日蓮上人と徳川家康(林是晋) 末松貫正
- 11 日蓮聖人伝の一考察(長谷川寛勝) 清家静元
- 12 日蓮聖人の成仏観(桑名貫正) 竹本智経
- 13 宗祖の法華経観(望月海英) 外崎寿宣
- 14 立正安国論について——善神捨国の一考察——(上田本昌) 中尾隆淨
- 15 久遠成院日親上人(町田是正) 森塚龍昭
- 16 日蓮聖人の上行自覚(中条暁秀) 安川龍篤
- 17 波木井實長公について(中里悠光) 吉村明悦

- 18 宗祖の信行論について(奥野本洋) 吉本泰三
- 19 日蓮聖人の孝養観(若杉見龍) 渡賢治
- 20 冠鑑日親上人(中里悠光) 清水正樹
- 21 関東三檀林と檀林の組織(長谷川寛勝) 渡辺和秀
- 22 題目論(若杉見龍) 和田昌秀
- 23 日蓮聖人の布教について―特に鎌倉を中心にして―
(上田本昌) 郷政日出
- 24 八品門流・本門法華宗史―八品門流の形成―(林是幹) 阿南重信
- 25 弘教の三軌に関する一考察(長谷川義浩) 水野治男
(作・奥野)

本記念号執筆者紹介

- 望月日滋 身延山第八十八世・本学々長
- 竹下日康 身延山総務・本学園理事長
- 林是幹 本学教授(日蓮宗史)
- 浅井円道 立正大学教授・文学博士
- 川添昭二 九州大学教授・文学博士
- 河村孝照 東洋大学教授・文学博士
- 望月海淑 本学教授(仏教学)
- 若杉見龍 本学教授(天台学)
- 上田本昌 本学教授(日蓮教学)
- 中条暁秀 本学講師(日蓮教学)

- 桑名貫正 本学講師(日蓮教学)
- 奥野本洋 本学講師(天台学)
- 中里悠光 本学講師(法学)
- 林是晋 本学講師(日蓮宗史)
- 高橋堯昭 本学教授(哲学)
- 桐谷四郎 山梨大学教授(英文学)
- 町田是正 本学教授(歴史学)
- 北沢光昭 本学々会員(日蓮教学)
- 大森孝 本学教授(英語学)
- 村野宣忠 前立正大学教授・ハワイ開教司監
- 里見泰穂 本学々頭(仏教学)
- 望月海英 本学講師(仏教学)

○図書寄贈者紹介

- ・身延山学園同窓会―六条学報(二十二巻)密教研究(十八巻)
- ・吉田鳳祥師―日本人物文獻目録他三冊。
- ・竹岡智宣師―再版身延山御書類聚。
- ・菅原瑞明師―歴代天皇御肖像護画集。
- ・児島鍊戒師―徳島県百科事典他十六冊。
- ・松下日孝師―葬儀法要戒名仏壇お墓の話。
- ・長沢順論師―鶴飼山遠妙寺史。
- ・灘上忠教師―日蓮聖人の歩まれた道二冊。
- ・木村日愛師―活ける法華経他二十四冊。